

## 第5章 振り返り報告会議の実施概要

離島名	南大東島
議題①：今年度の振り返り（定量面と定性面）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度よりツアー本数・総客数が高い結果となった。満足度は、宿泊施設以外の項目で90%超え。次回満足度ランキング1位を目指すため、宿泊施設の改善を行っていく。</li> <li>・他離島で実施している人気のある体験で、島内でも出来るものから取り入れていきたい。</li> <li>・「より魅力的なツアー」と記載されているが、参加者のほぼ全員が「ただ行ってみたいだけ」の方が多い。同行者の理解・認識不足が目立つ。</li> </ul>
議題②：自走化についてのロードマップ策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・RAC 便(南大東島)の時刻が大幅に変更され、午前便が7:25 出発(※6:25 集合)になり、島あっちのエントリーにも影響が出ていく事が見込まれる。島側からは時間変更の打診中。但し、島民の生活線路のため、モニターツアー参加者で席を埋めると島民への生活への影響が出てしまう。以上の問題を解決しなければ、島あっち事業実施への影響が見込まれる。</li> <li>・エアーが厳しい場合は、フェリーでの集客も検討。但し、フェリー運航表が1カ月前にしか決定しないところが実施への障害となる。</li> </ul>
議題③：次年度の意向について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月から実施可能であれば、波が安定している6月にフェリープラン造成検討。また、現時点で長時間乗船（13時間乗船）ツアープランはどの離島でも行ってないので、県民に需要があるか実施してみたい。</li> <li>・南大東島での参加者（高齢者）は、フリータイムなしが好まれる傾向にある為、次年度はフリータイムなしも要検討する。</li> </ul>

離島名	北大東島
議題①：今年度の振り返り（定量面と定性面）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ツアー造成から応募終了日までの期間が短かったことで、最少催行人数に達しないプランが数本あった為、次年度は早めにツアー公開できる体制作り努める。</li> <li>・ハマユウ荘の部屋確保が難しく、かつ、料金もシングルで一泊1万4千円（2食付き）の為、必然と、全体の料金が高騰してしまう。</li> <li>・「マリン・釣り」ツアーの催行率を上げたい。相互ツアーでは、悪天候でマリン体験が全て中止となってしまったが、渡船やマリン事業に必要な手続きについて教えていただいたことで、マリン体験プランを提供していきたい意向が強くなった。</li> </ul>
議題②：自走化についてのロードマップ策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状の内容で承諾。</li> <li>・島では受け入れのノウハウがなく、勉強したくても時間がない状況。</li> </ul>
議題③：次年度の意向について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度は、毎月1本のツアー造成を行う。</li> <li>・次年度は6月からでも受入れ可能。しかし、人材の調整が必要となる。</li> </ul>

## 第5章 振り返り報告会議の実施概要

離島名	久高島
<p>議題①：今年度の振り返り（定量面と定性面）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度、事業初期から安定的なツアー造成を行い今年の最終着地は約 190 名。</li> <li>・時間配分について、昨年同様評価が低く、アンケートから島まーいの時間調整が必要である。子供が同伴している参加者は、子供が飽きると早く宿泊施設に戻りたい傾向が見受けられ、島まーいの時間を長く感じている様子。夫婦や友人同士で参加する参加者は、久高島の歴史に興味が湧くので短く感じている。両方に合わせることは難しいので、参加者を見ながらガイドが時間調整配分を行う。</li> <li>・今年度は 1 プランのみを通期で実施。アンケートから修正箇所を抽出し改善した結果、後半は満足度が安定、運用もスムーズに行えた。</li> </ul>	
<p>議題②：自走化についてのロードマップ策定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年後の目標は「観光業で成り立つ土台作り」にて合意。</li> <li>・観光インフラ整備については、役場と連携し、ハード面の改修も行っている。</li> <li>・宿泊施設について、民宿 2 件 民泊 4 件（※島あっちいで利用しているのはその内の 1 件）</li> </ul>	
<p>議題③：次年度の意向について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月催行可能。6月実施のツアー造成は 2 本希望</li> <li>・来期は新体験プログラム①バスソルト手作り体験 ②釣り を実施予定。</li> <li>・今期受講したナイトプログラム「星空ガイド講習」を体験プログラムとして造成し、モニターツアーにて実施する。</li> <li>・次年度実施する自走化支援施策のヒアリングを行い、①ツーリズムエキスポ ②アンケート結果、満足度 WEB 公開 ③相互ツアー&amp;県外離島訪問 を要望。</li> <li>・国土交通省の実施する事業「離島活性化交付金事業」補助金を活用し、ガイド育成の講習会を実施する為、次年度ではガイドが増える予定。</li> </ul>	

離島名	宮古島   さるかの里
<p>議題①：今年度の振り返り（定量面と定性面）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ツアー造成責任者が、見積りの詳細を把握していない事で、適正価格を外している可能性があった。今後はコーディネーター担当と合わせて、丁寧な造成を行い、適正価格を設定する。</li> <li>・有名スポット巡りではなく、コーディネーターが実施したかった地域の人しか知らないようなスポットを巡るバスツアーを実施できた事が自信に繋がった。しかし、旅行会社との連携が弱いことが原因となり、プログラム内容の満足度を低下させていた。旅行会社にモニターツアーの内容を理解頂き、手配するバスの対応など、満足度を向上させる為に、より連携を強化していく。</li> </ul>	
<p>議題②：自走化についてのロードマップ策定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内容は問題無し。</li> <li>・さるかの里としては、地域に住む方々との触れ合いが何よりも魅力と考えており、島あっちい事業を通して、地域に住む方々との交流が出来る体験商品を作りあげていき、各地域の事業者と協力することで、地域に住む方々へ役割を持たせたい。現在行っている取り組みとして民泊事業を行っており、今後は民泊事業のレベル向上、民泊事業の自社 HP を活用した販売していくための仕組み作りを行っていきたい。またさるかの里の認知拡大を目的とし、積極的に情報発信を行っていきたい。</li> <li>・行政（宮古島市）と連携し地域のサポートに協力していただきたい。</li> </ul>	
<p>議題③：次年度の意向について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業初期よりツアー造成可能。</li> <li>・昨年度より事務局とのコミュニケーションは増えたが、今後は旅行会社とのより綿密な協力体制を要望。</li> </ul>	

## 第5章 振り返り報告会議の実施概要

離島名	宮古島   観光協会
<p>議題①：今年度の振り返り（定量面と定性面）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の実施内容としてツアー造成本数3本を予定していたが、催行できなかった。原因としては宮古島観光協会が島あっち事業を担当していた職員の退職によって島あっち事業の運営が難しくなった。宮古島の自走化に向けての課題として民泊事業以外での体制作り、整備が重要となってくる。</li> <li>・宮古島にて開催した商品開発支援プログラム『コンプライアンス講習：JTB 沖縄』では、離島側と講師側でミスマッチが生じていたため、研修後に離島側が講習を活かすことが出来なかった。来年度についてはロードマップ作成時に宮古島の自走化への方向性を明確にすることで、必要な自走化支援プログラムを提案する。</li> </ul>	
<p>議題②：自走化についてのロードマップ策定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内容は問題なし。</li> <li>・現在宮古島は『エコアイランド』として売り出している事もあり、体験プログラムに『エコ』を取り入れた内容を造成していく。お客様が多く集まる傾向がある夏頃の繁忙期で集中的にツアー造成を行い、閑散期にあたる冬シーズンでは造成数を減らす。宮古島は観光客も多く、早期自走化が見込めるため、旅行会社・OTAとのマッチングを積極的に行っていく。</li> </ul>	
<p>議題③：次年度の意向について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度の事業準備として7月のツアー公開を目標に5月頃からツアー造成に取り組んでいく。</li> <li>・目標としては一昨年の実績から、年間ツアー造成数：50本、送客数250名を目標数値設定とする。</li> </ul>	

離島名	多良間島
<p>議題①：今年度の振り返り（定量面と定性面）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・満足度は全離島中で高い水準にあるが、キャパシティが小さく、多くの人数を受け入れることが出来ないため、年間を通して得られるサンプル数が少ないことが課題。</li> <li>・自走化の観点から必要な物だけを来年度の体験として残し、新たな体験プログラムを造成する。</li> </ul>	
<p>議題②：自走化についてのロードマップ策定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内容に問題なし。</li> <li>・シニア層でも楽しめる体験プログラムの作成、また多良間島の地産地消を目的とした料理体験プログラム造成に力を入れていきたい。</li> <li>・他の離島が実施している体験プログラムや取り組みに興味がある。来年度は人材育成事業の観光商品開発支援や相互ツアー等を活用してツアー造成に活かしていく。</li> <li>・新たな人材の確保が課題となっており、来年度では島あっち事業を通して本格的に観光人材育成について取り組んでいく必要がある。</li> </ul>	
<p>議題③：次年度の意向について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度の事業準備として7月のツアー公開を目標に5月頃からツアー造成に取り組んでいく。</li> <li>・多良間村ではOTAでの体験プログラム販売を行い、自走化を目指す。</li> </ul>	

## 第5章 振り返り報告会議の実施概要

離島名	石垣島   伊原間
議題①：今年度の振り返り（定量面と定性面）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度はコーディネーターの都合により、調整する時間がとれずツアー催行無しの結果となった。</li> <li>・次年度では社内の別の人物をコーディネーターの担当にした上でツアー造成を行い参加していきたい。</li> <li>・地域で参加したいという事業者は複数いる為、事業者の取りまとめを行うことで体験プログラムの造成が可能となる。</li> </ul>
議題②：自走化についてのロードマップ策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、一人しか動ける人間がいなかった為、人材の育成を重点に、地域の事業者への呼びかけを行い、積極的に地域へ収入を作っていく地域貢献を目指す。そこから今後自走化事業社を生み出すことを目的としたい。</li> <li>・地域の新たな参入事業者を積極的に募り、島あっちいを活用して経験を積ませたい。また、外部販売業者との接点を創出し、事業者個人で販売していく力をつけさせることに集中したい。</li> </ul>
議題③：次年度の意向について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例年夏季は地域自体の繁忙期であり難しい。一方冬季は積極的に受け入れていけるよう体制を整えたい。</li> </ul>

離島名	石垣島   米原
議題①：今年度の振り返り（定量面と定性面）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度に比べ、金額の上昇から「造成しても応募が少ない」状態が多く見受けられた。また、造成期間もコーディネーター及び関係ガイド各位の都合により調整に時間がかかり、募集期間が短くなってしまったことも原因と思われる。</li> <li>・冬季のコンテンツ構成に苦労したが、夏季コンテンツのシュノーケリングや、今年度初めて実施した海人釣り体験は非常に好評であった。また、交流会の様子がメディアに取り上げられた為、それを見た県外の方からも集落散策をしてほしいなどの問い合わせがあり、エリア事態のコンテンツは非常に高いポテンシャルを持っていることが感じられる結果となった。</li> <li>・次年度では一泊二日などコストを抑えたツアー造成を行い、売れるコンテンツのブラッシュアップなども意識して、更にクオリティの向上を目指す方針でいきたい。</li> </ul>
議題②：自走化についてのロードマップ策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エリアブランディングでは、地域散策が高い評価を得ていることから「石垣島 = マリン」という認識ではなく「石垣島の米原地区」としての価値を生み出すべく、今後は文化体験や集落散策、集落の歴史背景を学ぶなどしてリゾート観光地との差別化を図っていく。</li> <li>・人材育成では、体験プログラムの造成にあたり、現在マリン事業で人材が不足している。新たな人材の発掘を行い、島あっちい事業にて人材の自走化を行っていく方針で進めていく。</li> </ul>
議題③：次年度の意向について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度において夏季に関してはコーディネーターが本業で行っているマリン事業が多忙になる為、6月から9月は造成本数を伸ばすのは難しい。</li> <li>・新規人材を発掘していたとしても周辺のガイドや宿の状況も繁忙期の為、土日など好条件の日程確保は厳しいとの予測。</li> </ul>

## 第5章 振り返り報告会議の実施概要

離島名	西表島   大富
議題①：今年度の振り返り（定量面と定性面）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度に比べて、自己負担額が増える事でエントリー数が減り、エントリー獲得に苦戦した結果となったが、一方でアンケートの満足度に関しては全離島の中でも上位にランクインしている為、引き続き次年度では月1本のツアー造成が出来る様に、取り組みたい。</li> <li>・星空観察、草木染体験のツアーで行っていたが、自走化の観点からも他の商品展開や連携を考えていきたい。大原公民館が主体として島あっちい事業を実施する体制を構築することで、より沢山の事業者や連携をする事ができ、地域の中心となるコーディネーター役の育成にも繋がる為、次年度では積極的に検討していきたい。</li> <li>・自走化支援施策では料理講習を行い、より婦人会の料理スキルが向上した。また、次年度は相互ツアーで満足度の南大東島へ参加を希望かつ、大富地区も高い満足度の為、他の離島の方にも見て頂きたいとの事。</li> </ul>
議題②：自走化についてのロードマップ策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状の問題点として竹盛旅館の継続について検討状態の為、自走化商品の販売の軸では検討が難しい。</li> <li>・大富地区の公民館として島あっちい事業へ取り組むことが出来れば、連携事業者の拡大や人材育成にもつながる為、ロードマップを検討する事は可能性として大きい。島あっちい事業を通して、地域の観光振興の座組を用意していきたい。</li> </ul>
議題③：次年度の意向について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度の事業準備では、6月から8月迄、各週末に一本ずつツアー造成の仮押さえをする事が出来た。ツアーの内容も、自走化販売や世界自然遺産の観点も踏まえて自然体験を取り入れていく。</li> <li>・自走化支援施策については、相互ツアーで南大東島へ参加する、県外の離島へ訪問研修、また島あっちい事業の成果発表への参加など積極的にコーディネーターが島外に出て、他の地域の取り組みを学び、地域観光への取り組みを実施していきたい。</li> </ul>
離島名	西表島   祖納
議題①：今年度の振り返り（定量面と定性面）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度よりわずかに少ない造成本数となったが、アンケート評価は全体的に高く、特に新規コンテンツの船浮エリアも交えたクルージングは高い評価を得た結果となった。</li> <li>・今年度は試験的にいろいろなコンテンツを組み込んだモニターツアーを実施し、様々な組み合わせパターンで集客動向を検証した。全体的に船浮クルージングとカヌー体験は非常に高評価であったが、一方で、今年度より実施したナイトクルージングは天候に左右される形となり、改善が必要である。</li> </ul>
議題②：自走化についてのロードマップ策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材育成をメインに進めることで認識のすり合わせ完了。新コンテンツを考案したガイドなども積極的に取り込んでいき、地域活性化に繋げていく。</li> <li>・人材育成について、そもそも地域に人材が少ないので外部からも積極的に受け入れていきたい。次年度から島あっちい事業への参画意思を示している西表島（白浜地区）とも連携し相互で協力できる体制を作っていきたい。</li> <li>・地域コンテンツの造成について、カヌーやクルージングなど人気コンテンツは引き続き実施しつつ、民謡や民具作りなどの体験プログラムを造成し、文化体験も積極的に打ち出すことでマリン事業以外の価値をしっかりと創出していく方針で進める。</li> </ul>
議題③：次年度の意向について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月の実施は難しい。今年度と同じく豊年祭への参加は造成したいのでそこから始めたい。</li> <li>・新たなガイド候補が見つければ積極的に本数を増やしていきたい。</li> </ul>

## 第5章 振り返り報告会議の実施概要

離島名	西表島   船浮
議題①：今年度の振り返り（定量面と定性面）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・船浮地区は夏季、特に船便や体験内容については天候の影響を受ける場合が多いので、天候不良で中止になる可能性も加味し、月に3～4本と同島内でも多めにツアー造成を行った。結果的に催行率も良く、実施ツアー全体の評価も高い結果となり、船浮地区のガイドのレベルの高さも再認識できた。</li> <li>・「何もない秘境」といってもあまりにも何もない（商店など）と参加者より意見があったが、一方でその本当に何もない部分に魅力を感じている参加者もあり、今後はそのあたりのミスマッチが起きないように募集文や地区の説明の見直しを意識していく。</li> </ul>
議題②：自走化についてのロードマップ策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度では新しいガイドを島あっちい事業へ積極的に参加させ、ガイド育成に繋げる。</li> <li>・人材育成について、ガイド候補を上手く育成していきたい。コーディネーターと分担量を調整し経験をつませ、研修などにも予定を合わせて参加させていきたい。</li> <li>・受け入れ体制の強化について、現在宿が一件体制なので宿になにかあれば受け入れは不可になる。地域には他にも民宿があるので協力体制の構築を目指す。</li> </ul>
議題③：次年度の意向について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月は繁忙期のため、モニターツアーを実施するのは難しい。</li> </ul>

離島名	小浜島
議題①：今年度の振り返り（定量面と定性面）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度41名の送客に対して、今年度は33名の送客の着地となった。自己負担額向上の影響でエントリーが少なくなってしまっている傾向に対して、フリータイムを多く設け、素泊まりの宿泊先と連携して対策を行った。</li> <li>・満足度調査は全体平均4.5に対して小浜島が4.0となった。原因としては6本中2本のツアーで、体験プログラム中にトラブルが発生してしまい、全体平均をかなり落とす結果となってしまった。</li> <li>・改善点としてツアーの段取りやトラブルが無い様に事前の確認やテスト等を徹底していく事となった。</li> </ul>
議題②：自走化についてのロードマップ策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島あっちいの自走化支援施策を活用してアクティビティジャパンやアソビュー、たびらいアクティビティ等のOTAの活用を軸に売上目標を設定した。</li> <li>・段階的に売上を伸ばしつつ、昨年末から加入した小浜島商工観光事業者協議会のメンバーと一緒に、地域の観光事業者との連携を図っていきたい。</li> <li>・今後は黒島のビーチクリーニング体験やイベント等も、体験として販売出来る様に、黒島の視察や島あっちいのモニターツアーでトライアルをしたい。</li> </ul>
議題③：次年度の意向について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度は6月の受入れについては可能で、2本造成の意思確認が出来た。しかし、7月、8月は例年通り観光客数のピーク時期になる為、造成が難しい状況になる。</li> <li>・次年度の自走化支援については、一度OTAについての基礎知識や販売方法等のレクチャーを希望。また、旅行会社とのマッチングも積極的に行っていき、旅行会社目線で、小浜島の体験プログラムを見てもらい、販売に繋げていきたい。</li> </ul>

## 第5章 振り返り報告会議の実施概要

離島名	黒島
議題①：今年度の振り返り（定量面と定性面）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は前年度に比べて、ツアー本数や定員数等の「数」を多く作る事が出来た。しかし、自己負担額が向上したため、最少催行人員未達のツアーも昨年度比べて増加した結果となった。</li> <li>・特に星空観察のプログラムの満足度が5段階評価で3.5前後と低い。星空講習にて高い評価を安定して出す事ができれば、全体の底上げになると考える為、外部研修や他地域の取り組みを学ぶ機会を次年度設けていきたい。</li> <li>・自走化支援施策では料理講習を受けて3月のツアーに盛り込んで、トライアルをしていきたい。また、次年度は釣り体験や料理体験といった新規体験の造成に取り組みつつ、自走化に繋がる商品造成を意識したツアー造成を行う事になった。</li> </ul>
議題②：自走化についてのロードマップ策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・黒島の民宿事業者で立ち上げた「ルート黒島」の売上目標を最低ラインとして合意形成を図った。売上目標には島あっちい事業だけでなく、既取引のある観光事業社や自走化の販売も含めて、より拡大していく事を想定。</li> <li>・島あっちい事業の自走化の取り組みも、ミスマッチが無い様に体験プログラムの質を向上させて、安定して販売できるような状態の商品を積極的に販売につなげられるようにしていく。</li> <li>・コーディネーターがツアーガイドの内容を視察し、フィードバックを島内で行いつつ、ガイドの研修に積極的に参加して頂く必要がある。事務局で視察同行を増やし、直接ガイドへアンケートのフィードバック等を、設けるなどのサポートが必要。</li> </ul>
議題③：次年度の意向について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度の事業準備として6月の週末毎に2本ずつツアー造成のスケジュールを設定。</li> <li>・自走化支援については、島内のガイドも積極的に参加して頂くように、事業初期の説明会をルート黒島全体へする必要し、自走化への取り組みを地域全体で行ってきたい。</li> </ul>

離島名	与那国島
議題①：今年度の振り返り（定量面と定性面）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は昨年度に比べて、ツアー本数や定員数等の「数」を多く作る事が出来た。また昨年度に引き続き、草木染体験やフラダンス体験を行う事で満足度を向上させている。</li> <li>・一方で、体験軸及びツアー軸のアンケートデータから、時間配分について満足度が低く、全体の満足度を下げる要因となってしまった。原因としては、1泊2日の工程で滞在時間が短く、体験時間やオプションの時間が参加者にとって少ない印象を受けている。今後の工程の改善点として、2泊3日に延長や、帰路便を最終便に変更する等が挙げられた。</li> </ul>
議題②：自走化についてのロードマップ策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロードマップにおいては、まず前提として与那国町観光協会の法人化が最優先で、かつ自主財源を確保できる様な事業を創出していく必要がある。挙げられた事業としては、島内のアクティビティ事業者を集約してOTAサイトの運営や、島内レンタカー等が挙げられた。</li> <li>・また、今後の島あっちい事業を活用して、島内で集落散策や星空案内ができる様な観光人材を確保し、育てる必要がある。その為、来期は商品開発支援施策で、ガイド研修を島内で9月初旬ごろに行いたい。また、夏場のボトム期に対して、誘客出来るような商品開発をおこないつつ、観光消費額向上に向けた取り組みを行ってきたい。</li> </ul>
議題③：次年度の意向について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来期の島あっちい事業については、8月末～9月初旬からツアー造成を行い、少しずつ増やしていきたい。</li> <li>・またツアー造成も今年度加入した入米蔵様を中心に行いながら、コーディネーターとしてのスキルアップを図ってきたい。</li> <li>・自走化支援施策については、コーディネーターの知識習得のために、県内外問わず他の離島の事例を学びの機会があれば積極的に参加したい。</li> </ul>

## 第5章 振り返り報告会議の実施概要

---

### 第4項 総括

今年度の島あっちい事業の最終振り返り会は3部構成となったが、総じて各離島の自走化に向けてロードマップ策定が中心となる場となった。

まず、第一部の振り返り会においては各離島のツアーや体験プログラムの満足度について、意見交換を行った。平均点以上の満足度については、他離島への好事例紹介として取り組みをヒアリングし、平均点以下であれば、そのアンケートの自由記述をもとに参加者の声として今後の課題として向き合う場となった。

第二部のロードマップ策定においては、島あっちい事業を活用して自走化に向けた取り組みを計画的に可視化する事で、各離島のコーディネーターと未来を見据えた打合せが出来た。特に、売上額や自走化商品の販売数、ツアーの満足度、人員の増員など定量的な目標を立てる事で具体的なアクションや、改善点が明確になった。次年度はこのロードマップをもとに島あっちい事業に取り組み、期中に随時更新をかけながら、運用していく。

第三部の来期島あっちい事業についての意見交換では、各離島で策定したロードマップをもとにヒアリングする事ができた。特に自走化支援施策についてはマッチングの成約率向上や販売商品を魅力的に伝える具体的なノウハウを知りたい、といった意見が多く挙がった。また、商品開発支援研修についても、今年度実施した「エコガイド」や「星空観察」、「料理講習」など事務局が用意したプログラム以外でも、希望を聞いてほしいとの要望もあった。この点については、柔軟に離島の状況に合わせて支援施策を行っていきたい。